

CASBEE®名古屋

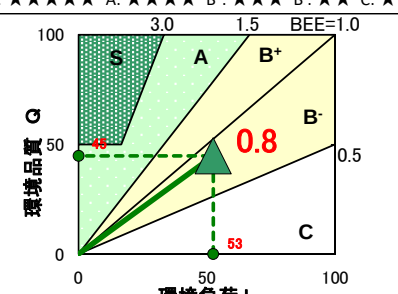
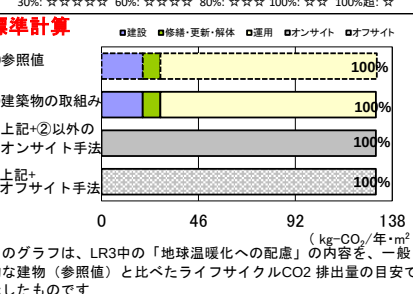
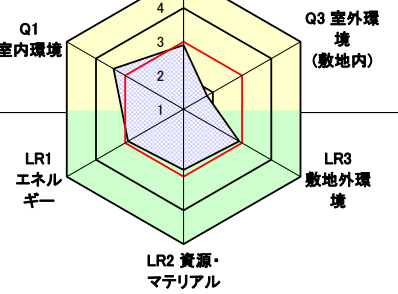
評価結果

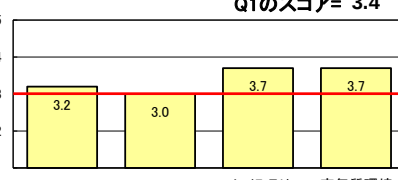
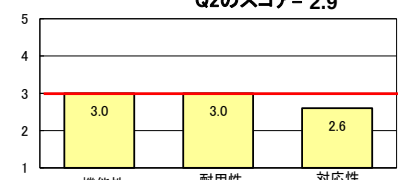
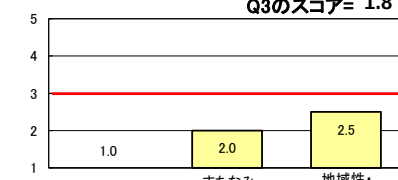
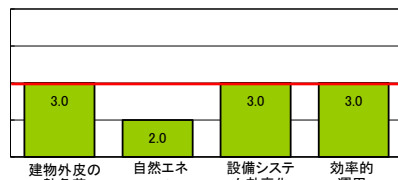
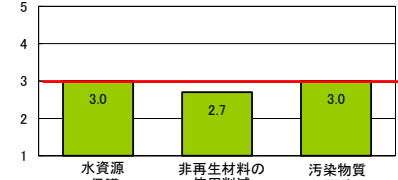
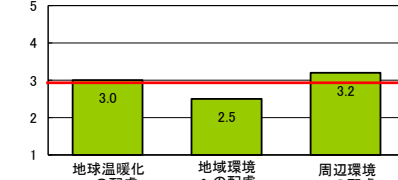
■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版、名古屋大学環境学研究所環境学研究室) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス那古野一丁目(304-6)新築工事	階数	地上13F
建設地	愛知県名古屋市中区那古野一丁目304番6	構造	RC造
用途地域	市街化区域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	66 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年5月31日
敷地面積	324 m ²	作成者	
建築面積	182 m ²	確認日	2024年6月3日
延床面積	2,003 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=0.8 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記③+オフサイト手法 (kg-CO ₂ /年・m ²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 2.7		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 2.8		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.9 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 

3 設計上の配慮事項		
総合 高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めています。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気汚染を回避しています。また、カーテン・庇(バルコニー)により昼光制御にも努めています。住戸部のサッシの遮音性能はT-2仕様です。	Q2 サービス性能 給排水配管は更新必要間隔の長い配管を使用しており、維持管理しやすい設計としています。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 特になし。	LR2 資源・マテリアル 解体時にリサイクルを促進する対策として、躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。	LR3 敷地外環境 屋外に漏れる光を点滅させたり、着色したりしないことから、外に漏れる光への対策が取れています。また広告物照明を設けません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンス那古野一丁目(304-6)新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.8
LR1	エネルギー	2.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.8



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。